

パガニーニ、ニコロ

Paganini, Nicolo

(1782年10月27日ジェノヴァ生、1840年5月27日ニース没)

イタリアのヴァイオリニスト、作曲家。ヴァイオリンの演奏技法の発展に寄与するとともに、卓越した技能とたぐいまれな人間的魅力を具え、ヴァイオリン史上、最高の名手として名を残した。また、リストをはじめとするロマン派の作曲家に、演奏上のすぐれた技巧が、音楽という芸術の一要素として重要であることに目を向けさせた。

ニューグローヴ世界音楽大事典(講談社)より



パガニーニが活躍した時代のイタリア

パガニーニ年表

	西暦	主要作品
生い立ち	10月27日ジェノヴァに生まれた	1782年
	マンドリンを始め、2年後にヴァイオリンに転じる	1787年(5歳)
	聖フィリッポ・ネーリ教会のミサでヴァイオリンを演奏し、「万人からの称賛」を浴びる	1794年(12歳)

ルッカ時代 (1801-09)	ルッカの新しい国立オーケストラの首席ヴァイオリン奏者に任命される	1801年(19歳)
		1805年(23歳)
	ナポレオン・ボナパルトの妹エリーゼ・パチョッキ公妃に宮廷のヴァイオリン独奏者に任命された	1806年(24歳)
		1807年(25歳)
	ルッカを後にした	1809年(27歳)

イタリア時代 (1810-28)	スカラ座でデビュー 2か月の間にミラノで11回もの演奏会を行う	1813年(31歳)
		1817年?(35歳)
		1820年(38歳)
	歌手のアントニア・ピアンキと愛し合うようになり、翌年、息子アキッレが生まれた	1824年(42歳)
		1826年(44歳)
	ローマ教皇レオ12世から黄金拍車騎士の称号を授けられた	1827年(45歳)

ヨーロッパでの 成功 (1828-34)	プラハ滞在中に、ユリウス・シトキ教授*の知己と称賛を得る	1828年(46歳)
	ドイツで演奏旅行を行って成功を収め、ワイマールでゲーテと、カッセルでシュポアと出会った	1829年(47歳)
		1830年(48歳)
	ベルリオーズの演奏会を聴きに行き、ヴィオラのための曲を書いてくれるようベルリオーズに依頼した その結果が《イタリアのハロルド》である	1833年(51歳)
	イタリアへ帰国	1834年(52歳)

晩年期	パルマのドゥカーレ劇場の管理を任される	1835年(53歳)
	専門医の努力のかいもなく着実に身体が衰弱し、5月27日ニースで没した	1840年(58歳)



ジェノヴァの聖フィリッポ・ネーリ教会

《24のカプリッチョ Caprices op.1》

室内楽曲《6つのソナタ op.2》
室内楽曲《6つのソナタ op.3》

ヴァイオリンと管弦楽のための
《ナポレオン・ソナタ Sonata Napoleone》

ヴァイオリンと管弦楽のための
《魔女たちの踊り Le streghe op.8》

ヴァイオリンと管弦楽のための
《協奏曲 第1番 op.6》

リコルディが [24のカプリッチョを含む] op.1～6を出版

ヴァイオリンと管弦楽のための
《協奏曲 第2番 op.7》
《協奏曲 第3番》

声楽曲《なんと幸せな日か Quel jour heureux》



パガニーニの墓(パルマ)

*ユリウス・シトキ教授：パガニーニの伝記を最初にした人物（請求記号 S05-149）

ニューグローヴ世界音楽大事典より

カプリス caprice[仏] capriccio [伊]

ニューグローヴ世界音楽大事典 (講談社) : カプリッチョの項 より

カプリッチョという用語は、17世紀の前半からヴァイオリン曲にもしばしば用いられ、G.B. ヴィターリはある四重奏ソナタのためにこの語を用いた(1669)。さらに後になると、この語は名技的な性格の音楽を指すようになったようである。

18世紀の初頭までに、協奏曲や独奏ソナタのなかの本格的なカデンツァが、しばしば「カプリッチョ」と呼ばれるようになり、それが装飾的な終止法の域を超えていることを強調し、即興的で気まぐれな性格を持っていることを示した。このようなカプリッチョは作曲家によって完全に楽譜で書き表されることが多かった。P.ロカテッリはくヴァイオリンの技法

L'arte del violino > op.3 (1733) のなかの12の協奏曲のために、24のカデンツァすなわちカプリッチョを書いている。これらのカプリッチョは、しばしば各楽章の残りの部分と同じくらいの長さを持っており、事実上、技巧的な練習曲となっている。タルティーニ (1740) と F.M. ヴェラチーニ(1774) も、この用語を同様の意味で用いている。パガニーニの24のカプリッチョ op.1 (1810頃) は、ロカテッリの線を継承したものである。独奏ヴァイオリンのためのこれらのエチュード (特にイ短調の第24番) は、後の作曲家たちに無数の変奏曲、狂詩曲 (ラプソディー)、編曲などの素材を与え、さらには他の楽器のための技巧的な練習曲にも刺激を与えた。

24のカプリスを素材にして

1. リスト **Franz Liszt:** パガニーニによる超絶技巧練習曲 (1838)
(改訂版: パガニーニ大練習曲、1851) (ピアノ)
第1曲: カプリス第5番、第6番
第2曲: カプリス第17番
第3曲「ラ・カンパネラ」: ヴァイオリン協奏曲第2番の終楽章
第4曲: カプリス第1番
第5曲: カプリス第9番
第6曲: カプリス第24番
2. シューマン **Robert Schumann:** パガニーニのカプリスによる練習曲作品3 (1832) (ピアノ)
第1曲: カプリス第5番 第2曲: カプリス第9番
第3曲: カプリス第11番 第4曲: カプリス第13番 「悪魔の微笑」
第5曲: カプリス第19番 第6曲: カプリス第16番
3. シューマン **Robert Schumann:** パガニーニのカプリスによる
演奏会用練習曲作品10 (1833) (ピアノ)
第1曲: カプリス第12番 第2曲: カプリス第6番
第3曲: カプリス第10番 第4曲: カプリス第4番
第5曲: カプリス第2番 第6曲: カプリス第3番
4. ミヨー **Darius Milhaud:** パガニーニの3つのカプリス (1927) (ヴァイオリンとピアノ)
第1曲: カプリス第22番 第2曲: カプリス第10番
第3曲: カプリス第13番

<第24番を使って>

1. パガニーニ **Nicolo Paganini:** 技巧的変奏曲 カプリッチョ第24番による (ヴァイオリンとギター)
2. ブラームス **Johannes Brahms:** パガニーニの主題による変奏曲イ短調作品35 (1862-63) (ピアノ)
3. ラフマニノフ **Sergei Rachmaninoff:** パガニーニの主題による狂詩曲
作品43 (1934) (ピアノとオーケストラ)
4. ルトスワフスキ **Witold Lutoslawski:** パガニーニの主題による変奏曲 (1943)(2台のピアノ)
5. ブラッヒャー **Boris Blacher:** パガニーニの主題による変奏曲 作品26 (1947) (オーケストラ)
6. 一柳 慧: パガニーニ・パーソナル (1982) (マリンバとピアノ)

OPAC による検索

キーワード欄に パガニーニ カプリス と入力してください



作品 ID から 24 のカプリッチョ ヴァイオリン を選択する



作品 ID AS〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 をクリックする

*校訂者で検索したい場合は、

キーワードに校訂者名（例：flesch など）を入力

*また、この冊子の所蔵リストで興味のある資料が見つかった場合には

詳細検索の請求記号欄に半角英数で請求記号（例：C03-189 など）を入力してください